

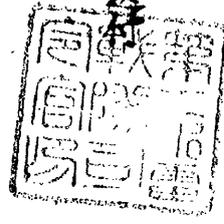
海軍省防務局長

二水戦機密第二四號ノ一五

昭和十七年十二月十二日



一月十二日



5

外南洋部隊増援部隊戦闘詳報 第四號

(第二水雷戦隊戦闘詳報 第一五號)

自昭和十七年十二月三日
至昭和十七年十二月十一日
第二次第三次第四次加島輸送作戦

第二水雷戦隊司令部

215

990T

目次

- 第一 形勢
- 第二 計画
- 第三 経過
- 第四 令達報告等
- 第五 戦果
- 第六 功績
- 第七 戦訓並ニ所見

(目次終)

外南洋部隊増援部隊戦鬪詳報第四號
(第二水雷戦隊戦斗詳報 第一五號)

自昭和十七年十二月三日
至昭和十七年十二月十日 第二次 第三次 第四次が島輸送作戦

第一形勢

左ノ外概不當部隊戦斗詳報第三號ノ通

一敵ノ空襲ハ益々大規模トナリ我が直衛戦斗機引揚後巧妙ナル
薄暮攻撃ヲ常用スルニ至レリ

二敵水上兵力ハルシガ沖夜戦ニ痛撃ヲ蒙リ一時稍萎縮セル氣配
ナキニアラサリシモ魚雷艇ノ活動頗ニ積極化シ連夜サボ島南西
海面ニ出沒ス

三東部ニシテギンヤ方面ノ情勢急迫ニ伴ヒ増援部隊ハ豫定ノ隻數

(驅逐艦一六隻)ヲ得ラレス

四第一次輸送(ルカ沖夜戦)戰訓ニ鑑ミ戰鬪機ヲ以テスルガ島泊地偵察及水偵ヲ以テスル同島周邊ノ索敵ヲ實施セラル

五潜水艦ニ依ル隱密輸送ハ概不成功セルモ少量(一艦ニ噸程度)ニシテガ島ノ窮乏益甚シキヲ加フ

第二計畫
機密當部隊命令作第四第五第六號ノ通

計畫摘要

二	回次	期日	指揮官	兵力	航路	日没時ガ島ヨリ離隔距離	揚陸作業時間標準	揚陸點
二 (十回)	二 (十回)	A 25d	高野 義雄	d×10 (3)	中央	一六〇	(二二〇〇) (二三〇〇)	同 マサフロンク第一(三) セギラウ 第二(二) (二)

四	三
十日	七日
A 2sd	B 15dg
dx11 (5)	dx11 (3)
中央	中央
一九〇	一六〇
(ニ 三 三 〇)	(ニ 三 〇 〇)
エス ペ ラ ン ス (6)	エ ス ペ ラ ン ス (5)
	ヌ サ フ ア ロ ン グ 第 一 (3)

計画上考慮事項

一 第一次輸送、戦訓並に敵魚雷艇活躍状況に鑑み警戒艦を増加

セリ

特ニ第四次輸送ニ於テハ揚陸點一箇所ニ對シ内外二重ノ哨區ヲ

設ケ内方ニ三隻外方ニ二隻ヲ配シテ嚴戒セリ

二 航路ハ北中南ノ何レヲ擇ルモ綿密ナル敵機ノ索敵網ヲ免ルル

算少ク味方直衛機ノ配備ヲ重視シ毎回次中央航路ヲ執レリ

三日没時ガ島トノ離隔距離ハ一六〇哩ヲ標準トセシテ第四次ハ

直衛戦機ヲ一六四〇迄配備サルル關係上一九〇哩トセリ

四 最初揚陸點ハ陸軍側ノ一方的希望ニ目從シヌサフアロング方面ニ

計画セラレシモ對敵顧慮上漸時西方ニ移動セリ

五 第二次輸送ニ於テドラム正ノ道寸索切斷多カリシニ鑑ミ以後

一 經過摘要 第三 經過

項目	第一	第二	第三	第四
南口出陣	十二月三日	十二月七日	十二月十日	十二月十三日
當口ルカ在泊敵艦船(江村情報)	dx6 Tx4	dx3 Tx1	dx6 Tx3	
敵機觸接	一三三ヨリ約一時間	觸接機ヲ認めズ	同上	
日没時カ島ト距離	一六〇哩	一六〇哩	一九〇哩	
味方直戰機	一五三五迄 四	一六二五迄 七	一六四〇迄 九	

一群百個宛ニ道寸索各一本ヲ附スルコトセリ
 六日没時二百哩以上カ島ト離隔シ翌朝、離脱距離ヲ犠牲ニ
 スベシトノ意見見アリシモ翌朝、損害ハ救援困難ナルヲ以テ結局
 命令通、計画トナレリ
 七、損傷艦ヲ生ゼシ場合ノ處置、曳航艦味方不時着(墜上格)
 搭乗員、救助艦等ニ関シ豫メ腹案ヲ確立シオケリ

敵魚雷艇撃沈	敵魚雷艇ト交戦	敵空襲ニ依ル損害	色銃ヨリ撃隊上	敵機來襲時刻及兵力	衛配備観測機
○	三三〇。夕暮ニ隻ヲ發見セシモ來攻セズ 三二七見失	卷波近彈依リ小損 重油タンク三使用不能 方位盤觀測鏡動修 眼鏡無線兵器及 發射機各部破損 戦死七 重軽傷二〇	○	一六二〇。(三〇機) 爆一四戦九雷七	一七〇〇迄 一二
黒潮一隻虫沈	サト島南西ニ於テ 八隻ト交戦	野分被弾前機及三座 窪満水航行不能 戦死機関長以下一七 嵐至近彈ニ依リ小損	一(黒潮)	三六四〇。(一六機) 爆二戦四	一七〇〇迄 八
江風一隻虫沈 涼風一隻大破 摺笠 雨艦共同ニテ一隻車沈	三二七ヨリ物々〇一〇〇ニ互リ 數隻ト交戦	ナシ	二(嵐長波照月)	一六五〇。(約三〇機) 爆二餘戦六以上	一七〇五迄 八

魚雷艇依リ損害	揚陸点(隻数)	入泊(引揚)時刻	ドラム正投入数	陸軍報依揚数	引揚時
ナシ	各フアロング第一(三隻) 同 第三(四隻) 24kg ハヤウ入泊豫定ヲ 誤リテ、各フアロング第二ニ 入泊セリ	二二一五(二三〇〇)	約一五〇〇	三一〇	四月〇九〇〇 當日海上濃霧アリテ 隠遠揚陸ニ適セリ
親潮噴出ヲ受ケ二本 至近距離ヲ通過セシキ 敵銃撃手ニ依リ、 戦死ニ輕傷九 三米測距儀使用不能	二三〇部隊集結 入ヲ試ミシモ魚雷艇ニ 妨カラレ揚陸断念	(三二四〇)			八月〇九〇〇 野分ハ長波ヲシテ成航 セシメ嵐有明(千歳)
三〇〇照月左舷後部ニ 魚雷命中舵及左舷機 故障重油火災誘爆 續發航行不能 翌二四〇沈没	エスバランス (六隻)	二三〇〇(照月救助艦。一〇〇)	約一二〇〇	二二〇	十二月〇九三〇 小發ハ全部現場ニ残留 セリ

1094

二經過補遺

十二月十一日夜戦ニ於ケル經過

時刻

記

事

二二〇〇 第四次輸送部隊、サボ島、二八〇度一三哩ニ達ス

二二二七 長波一〇〇度方向ニ魚雷艇ヲシキモノ發見

二二二九 嵐一〇〇度方向ニ魚雷艇ヲシキモノ發見

二二二九 涼風一三二度方向ニ魚雷艇ヲシキモノ發見

二二三三 江風一〇九度方向ニ魚雷艇ヲシキモノ發見

二二四〇 江風距離二五〇〇ニテ魚雷艇三隻(三發)魚雷艇八煙幕

其他

備考 陸軍報ニ依ル「ドラム」擲揚收數ニ多大ノ疑點アリ

搭乗員ニ名救助(護衛) 敗途ニ就キ照月ハ

五〇〇シヨトランド發

三三〇之ト合同護衛ニ

任ズ

○	○	○	○	○
二	一	一	一	五
四	一	〇	〇	二
〇	五	〇	〇	

嵐宛照月、乗員ヲ陸上ニ避退セシムベキヲ命ズ
 嵐魚雷艇來襲、為救助断念北方航路ニ避退ス
 嵐收容人員照月准士官以上四下士官兵一三五司令部下士官兵四
 長波收容人員照月下士官兵九司令部下士官兵二四
 各隊ニ全速力避退ヲ命ズ
 照月自沈處置完了
 照月沈没
 司令驅逐艦長以下准士官以上一七下士官兵一三九陸上ニ退去

221

1097

第四令達報告等
別紙電報寫通

第五戰果

一輸送成績

トラム正投入數約二七〇〇正

揚收數

約五三〇正(米麥約七五噸)

(揚收數陸軍報ニシテ多少疑點アリ)

二敵損害

擊手沈三大破 閣坐一

魚雷艇
飛行機

擊手隊三

三我が損害

照月沈没

野分大破

親潮卷波小破

6

第六功績

本作戦ハ輸送ヨリモ寧ろ戦闘ニ終始シ爲テ輸送本来ノ目的ヲ十分達成スルニ至ラズ却テ新鋭驅逐艦ヲ喪失損傷シ指揮官トシテ深ク主任ヲ痛感スル所ナリ然レドモ麾下ノ各隊艦ハ熾烈ナル空爆ヲ冒シ敵水上艦艇ニ依ルカ月威ノ下多數魚雷艇ノ可能ヲ撃手攘防過シ極メテ困難ナル任務達成ニ向ツテ克ク最善ノ努力ヲ致シ其ノ功績極メテ大ナリト認め

第七 戦訓 茲ニ所見

「ドラム」击輸送ハ机上ニ考フル程々間單容易ナルモノニ非ズ少クトモ入泊三分前ヨリ乗員ノ大部ヲ以テ之ガ固縛ヲ解キ投入準備ヲナシ投入並ニ綱捌キモ仲々面倒ニシテ小人数ヲ揚收スルモノトセバ作業順調ニ進捗スルモ約四五分ヲ西女シ計画トシテハ一時間程度見積ルヲ要ス

ニ挺身突入シテ投入セシドラム^ハ^ハ揚收成績不良ナリシハ輸送
 部隊ノ痛ク失望セシ所ニシテ左ノ點ニ關シ更ニ研究工夫ヲ要ス
 (一)一本ノ導索ニテ曳航スル正數ヲ減少シ道導索強度ヲ増シ
 出來得レバマニラ綱トス
 (二)輸送艦ハ極力陸岸ニ近ク入泊シ道導索授受ヲ確實ニス
 (三)リフ^レ無キ海岸ヲ擇ビ且導索ノ急^ハ引ヲ避ク
 (四)出來得レバ現場備付ノ舟艇ヲ利用ス右不可能^ハ驅逐艦搭載
 小艇ヲ一部殘シ揚收ヲ確實ナラシム
 現場舟艇ハ揚陸點ヨリ數時間航程離隔隱匿シ
 其ノ都度夜間回航セシムレバ安全ナルベシ
 (五)揚陸點ハ敵襲ノ顧慮成可ク少キヲ要シガ島ニ於テハ之ヲ
 西岸ニ選^ハブラ要ス
 (六)敵警戒艦ヲ増カシ敵警戒ヲ嚴ニナラシム
 之ヲ要スルニ徒ラニ多キヲ要ムヨリモ小量ニテモ確實ニ揚陸スル
 手段ヲ擇^ハバハレバ實効ヲ期シ難シ

三敵機ノ夜間行動自在ナルニ及シ我方ノ不知意ナルハ如何ニモ
 口惜シマ次第ナリ艦艇タルト航空機タルト問ハズ必寡制衆ヲ
 以テ信條トスル我軍ハ夜戦能力ヲ向上シ以テ我が持ハニ足ル
 一手ヲ鍊成セサルベカラズ

四輸送部隊ハ毎回薄暮時ノ空襲ヲ受ケタリ薄暮ニ於テハ
 敵機ノ發見困難ナルニ及シ敵機ハ航跡ニ依リ比較的容易ニ我ヲ
 視認シ得ルヲ以テ被爆撃手者側ノ不利大ナル點アリ

五第三次第四次輸送ニ於テハ敵接触機ヲ認メカリシニ拘ラズ敵機ハ
 味方直衛戦闘機ヲ引揚後極メテ短少ナル視界段落期ニ
 急襲シ來ルヨリ見テ敵ハソコモン群島各所ニ見張所ヲ有スルニ
 アラズヤト思料セラル

六高地防禦上魚雷艇ノ價值極メテ大ナリ其ノ奇襲ヲ完全ニ
 防遏スルハ殆ド不可能ニシテ如何ニ警戒艦ヲ増備スルモ其ノ

間隙ヨリ脱過侵入シ來ルベク且警戒艦自体奇襲ヲ蒙ル
虞アリ

七揚陸作業中ニ敵魚雷艇警戒法ハ警戒艦ヲ内外ニ線ニ配シ
内方警戒艦ヲシテ脱過侵入ヲ防ギ外方警戒艦ヲシテ追跡
撃手攘セシムルヲ一法ト認ム
但シ外方警戒艦ト雖モ徒ラニ長追ヒタナシ哨區ニ空隙ヲ生ゼ
サル如ク戒心ヲ要ス

八敵魚雷艇ハ二隻對艇トナリテ夾撃ニ出ツルコト多ク且煙幕ヲ
利用韜晦ヲ圖ルコト多シ

九驅逐艦ヲ以テスル魚雷艇攻撃手法ハ先ツ之ニ向首近接シニ料程度ニ
至ラバ後部砲旋回可能程度迄轉舵シ主砲ヲ以テ猛撃スルヲ
有効トス 本作戰中本法ニ依リ敵魚雷艇三隻ヲ撃手沈セリ、
但シ射撃手機関が轉舵前ヨリ目標ヲ確實ニ捕捉シアルヲ要ス

尚一料以内ニ近接セバ方位変化大ニシテ砲ノ指向追付カサルコトアリ
且俯角射撃ハ船休兵器ヲ毀損スル虞アリ

一。非建制部隊ニ於テハ稍モスレバ通信ノ圓滑ヲ缺ク例トシ照月
被害直後ハ將旗移揚モ伴ヒ電語通信混乱ノ氣味アリタリ
複雑ナル戦斗場面ニ於テハ之が瞬達ヲ必要トシ一層ノ研究
訓練ヲ要スルモノアリ

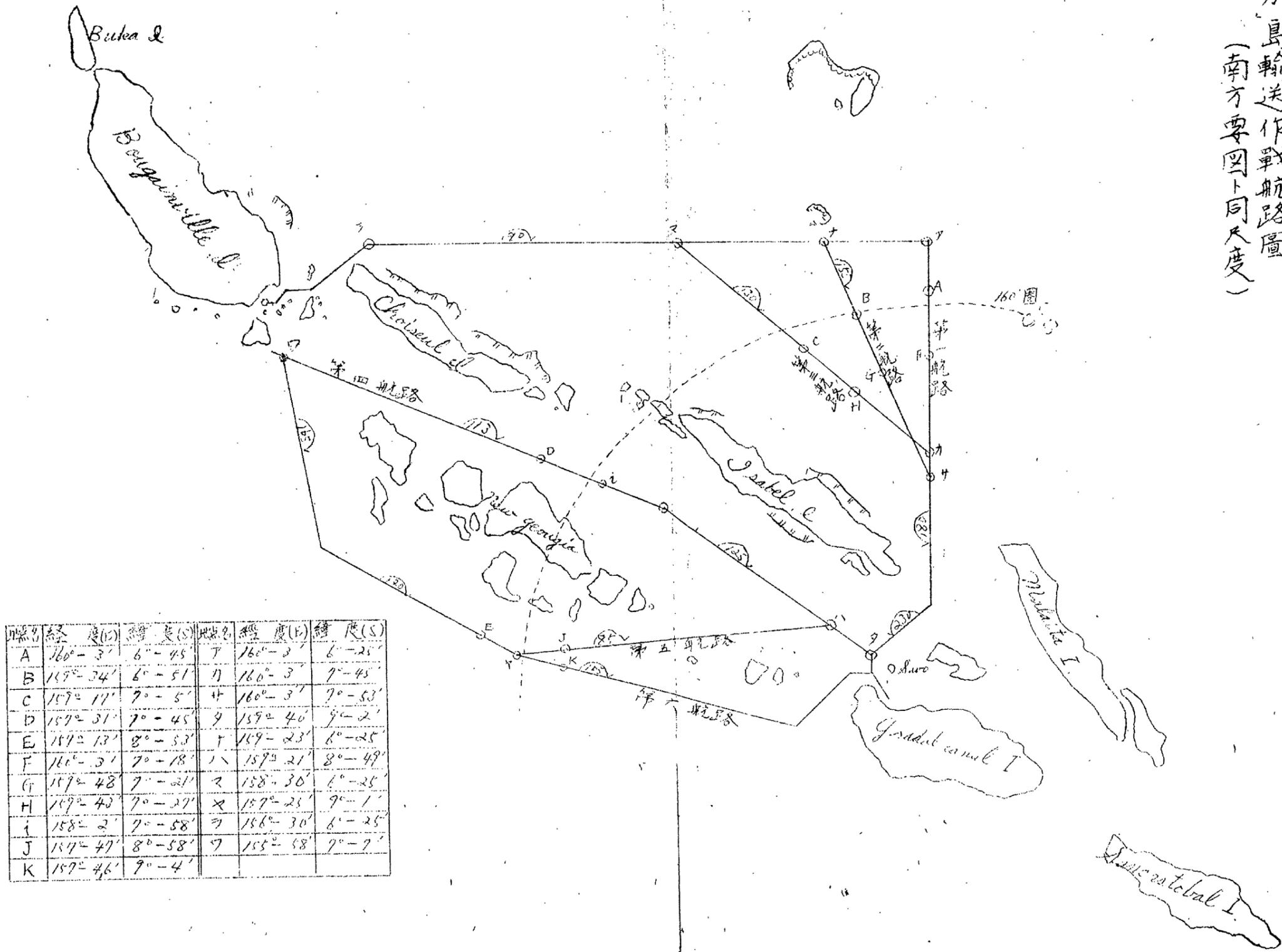
二。有明及夕暮ヲ一時當部隊ニ編入セラレタルモ速力出テサル爲
特別ノ取扱ヲ要セリ同時ニ行動スベキ各艦ノ運動力ハ成可ク
齊一ナルヲ可トス

三。第十一航戦が極メテ積極的ニ當部隊ニ協力セラレ其ノ直衛隊が
性能劣弱ナル少數觀測機ヲシテ敵優秀機ノ大群ニ襲ヒ掛リ
決死奮闘セルハ當部隊乗員ノ敬伏嘆仰セル所ナリ

(終)

1103

加島輸送作戦航路圖
(南方要図卜同尺度)



標号	経度(E)	緯度(S)	地名	経度(E)	緯度(S)
A	160°-3'	6°-45'	7	160°-3'	6°-25'
B	159°-34'	6°-51'	11	160°-3'	7°-45'
C	157°-11'	7°-5'	4	160°-3'	7°-53'
D	157°-31'	7°-45'	9	159°-40'	9°-2'
E	157°-13'	8°-53'	7	159°-23'	6°-25'
F	161°-3'	7°-18'	11	157°-21'	8°-49'
G	157°-48'	7°-21'	2	158°-30'	6°-25'
H	157°-40'	7°-27'	2	157°-25'	7°-1'
I	158°-2'	7°-58'	7	156°-30'	6°-25'
J	154°-47'	8°-58'	7	155°-58'	7°-7'
K	157°-46'	7°-4'			

機密外南洋部隊増援部隊命令作第四號

昭和十七年十二月一日、シヨートランド長波

増援部隊指揮官 田中頼三

増援部隊命令

一、敵公益が島増援ヲ強化シ近時著シク其ノ空軍並ニ水上兵カラ

増強セリ

同島陸上戦線ハ概不固着シ我陸軍部隊ノ糧秣彈藥ハ甚シク

缺乏シタル現狀ナリ

友軍潜水艦ハ連日カニンボニ糧食輸送中ナリ

二、増援部隊ハガ島ニ對シ十一月三日、ドム並ニ依ル第二次輸送ヲ實施

セントス

友軍航空部隊ハ索敵並ニ對空對海警戒ニ関シ我ニ協カス

三、軍隊區分

四 行動作業

(1) 行動豫定 (別圖第一)

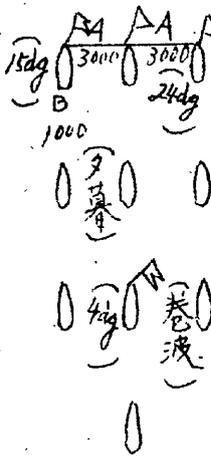
三月三〇日第一警戒航行序列ニ於ケル右側列左側列中央列ノ
 順序ニシヨトランド南口出裏湾外ニテ人々ナクシテ第一警戒航行序列
 トナリ速カニ四節ニテ中央航路進出一五〇〇ニ八節一七〇〇三〇節ニ
 増速日没後令ニ依リ第三警戒航行序列トナリ二〇〇泊地進入
 揚陸作業開始ニ三〇〇同終了避退中央航路ヲ經テ歸投ス

(2) 揚陸作業

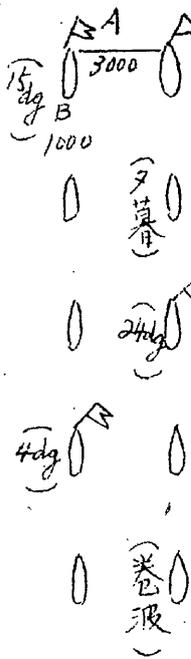
輸送隊ハ陸岸ニ近接漂泊シテトラム並投入自艦小發艇員
 陸兵ヲ以テ道中索ヲ陸上作業員ニ渡シタル後小發ヲ收容ス
 情況止ムヲ得カレバ小發ヲ泊地ニ殘留シ或ハ道中索端ニ錘量附

増援部	警戒隊	指揮官	兵	力	任
第一輸送隊	第二輸送隊	△ 25d	長波	夕暮	糧秣揚陸中敵奇襲警戒
□ 24dg	□ 15dg	24dg (海風)	夕暮	同	セギラウ輸送

六 敵警戒航行序列



第一(晝間)

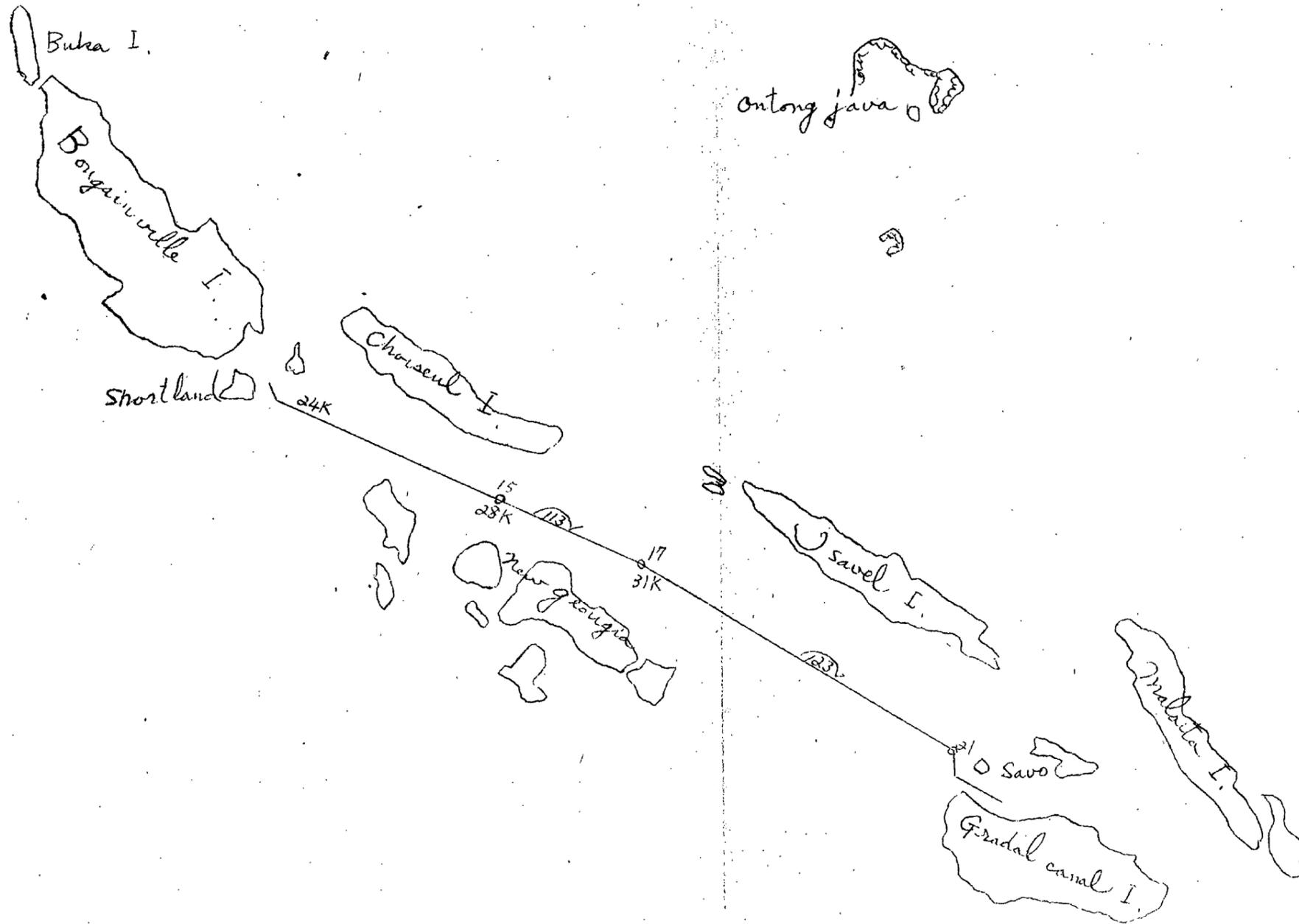


第二(晝間)

五、敵處置並ニ泊地警戒要領
 泊地進入前ヨリ敵水上兵力ニ對シ嚴重警戒シ突嗟戦斗ニ関シ
 遺憾ナキヲ要ス
 揚陸作業中敵魚雷艇ニ對シテハ警戒艦極力撃手攘ニ努ムルモ
 水上兵力出現セバ作業ヲ中止シ全軍戦斗ニ加入シ之ヲ捕捉撃手滅ヲ
 期ス
 揚陸中泊地警戒要領別圖第二(通)
 但シ情況ニ依リ警戒隊集結シテ警戒ニ任ズルコトアリ

獲浮標ヲ附シテ、ドラム上走ヲ放棄スルコトヲ得

6011



機密外南洋部隊増援部隊命令作第四號別圖第一
 (南方要圖と同尺度)

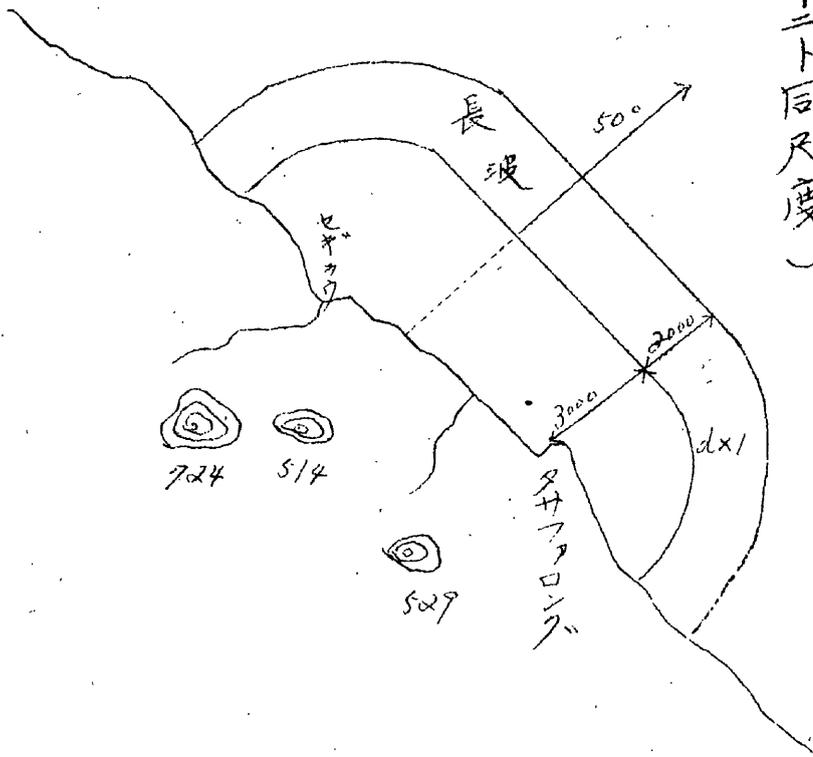
229

0111

サボ島



機密外南洋部隊増援部隊命令作第四號別圖第二
 泊地警戒要領圖
 (特種兵要地點圖のロモン群島其ノ下ト同尺度)
 敵艦ハ哨区内ヲ左廻リニ
 敵言戒艦ハ哨区内ヲ左廻リニ
 旋回シツシ警戒ニ任ズ





機密外南洋部隊増援部隊命令作第五號

昭和十七年十二月五日「シヨートラト」長波

増援部隊指揮官 田中 頼三

88

720

一 敵ハ益加島増援ヲ強化シ近時著シク其空軍

並ニ水上兵力ヲ増強セリ

同島陸上戦線ハ概テ固着シ我陸軍部隊ノ糧秣

彈藥ハ甚ク缺乏シタル現状ナリ

友軍潜水艦ハ連日カミンボニ糧食彈藥輸送中ナリ

二 増援部隊ハ外南洋部隊電令作第五號ニ基キ引

續キ「カ」島ニ對シ糧食及彈藥ノ輸送ニ任ズ

友軍航空部隊ハ索敵並ニ對空對潛警戒ニ關シ

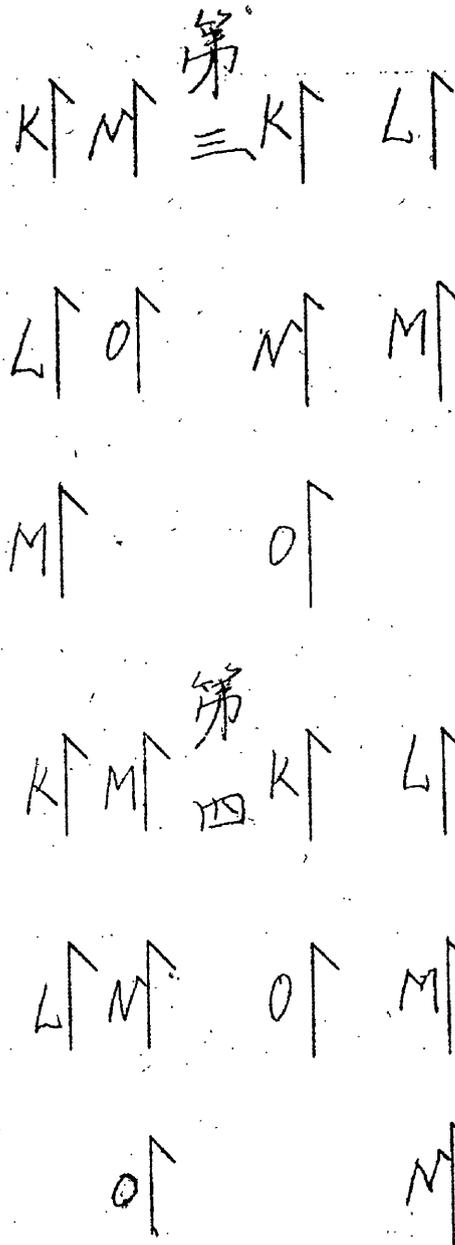
7111

我三協力久

三、輸送期日
 第三次 十二月七日

四、使用兵力並三任務分組
 第三次

第四輸送隊	第三輸送隊	第二輸送隊	第一輸送隊	警戒隊	隊名
O	N	M	L	K	記号
				指揮官	
				15dg	
		24dg	17dg	4dg	兵
		24dg (江風涼風) 有明	17dg (浦風谷風)	4dg (嵐野分) 長波	力
		15dg (親潮黒潮陽炎)			
エスベランス揚陸		セギラウ揚陸	第一揚陸點揚陸	第二揚陸點揚陸	任務
			敵襲警戒	揚陸時及其前後	協力



第一

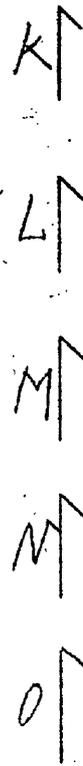
第二

六、敬言航飛行序列
 畫間(各序列共橫間隔三。縱間隔距離各八。)

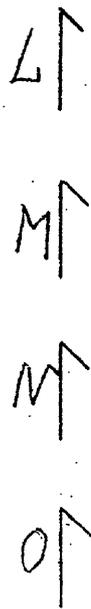
五、航路
 第一乃至第六航路ヲ附圖通定メ第三次ハ往復共
 第四航路トス

夜間(縦間隔距離各五。横間隔二。〇。〇トス)

第^二四



第^六五



七、輸送物料

第三次輸送隊各艦ト云云五二。二。個(24kg 有明八。二。個)

八、揚陸作業其他

標準下時間

二。〇。〇入泊揚陸開始 二。三。〇揚陸終了泊地及發

九會敵處置

泊地進入前ヨリ敵水上兵力ニ對シ嚴重警戒シ突差戰
闘ニ關シ遺憾ナキヲ要ス

(四) トラム缶揚陸要領

輸送隊ハ陸岸ニ近接漂泊シテ「トラム」缶投入自艦小發
ヲ以テ導索ヲ陸上作業員ニ渡シ之後小發ヲ收容ス
情況已ムヲ得ザレバ小發ヲ泊地ニ殘留シ或ハ導索端
ニ鏝量附旗浮標ヲ附シテ「トラム」缶ヲ放棄スルヲ得

(ハ) 後送人員(患者)收容

自艦小發ニ依ル收容員數ハニ。名程度トス
先方ノ舟艇ニテ來艦スルモノハ揚陸ニ支障遲延ヲ來サ
サル限リ收容ス

二、通信

敵有力部隊ニ對シテハ揚陸ニ拘泥スルトナク戦闘本位ニ
 行動ヲ執ル
 揚陸作業中警戒隊ハ輸送隊ノ敵側三〇〇附近ニ
 在リテ警戒シ敵魚雷艇其他ノ小兵力ハ獨力之ヲ
 驅逐撃手攘スモ有力部隊出現セバ揚陸ヲ止メ全軍
 戦闘ニ加入シ之ガ撃手滅ヲ期ス

一。機關待機

特令ナケレバ出撃時ヨリ二六節即時最大戦速ニ十分間

待機

一五〇以後最大戦速即時待機

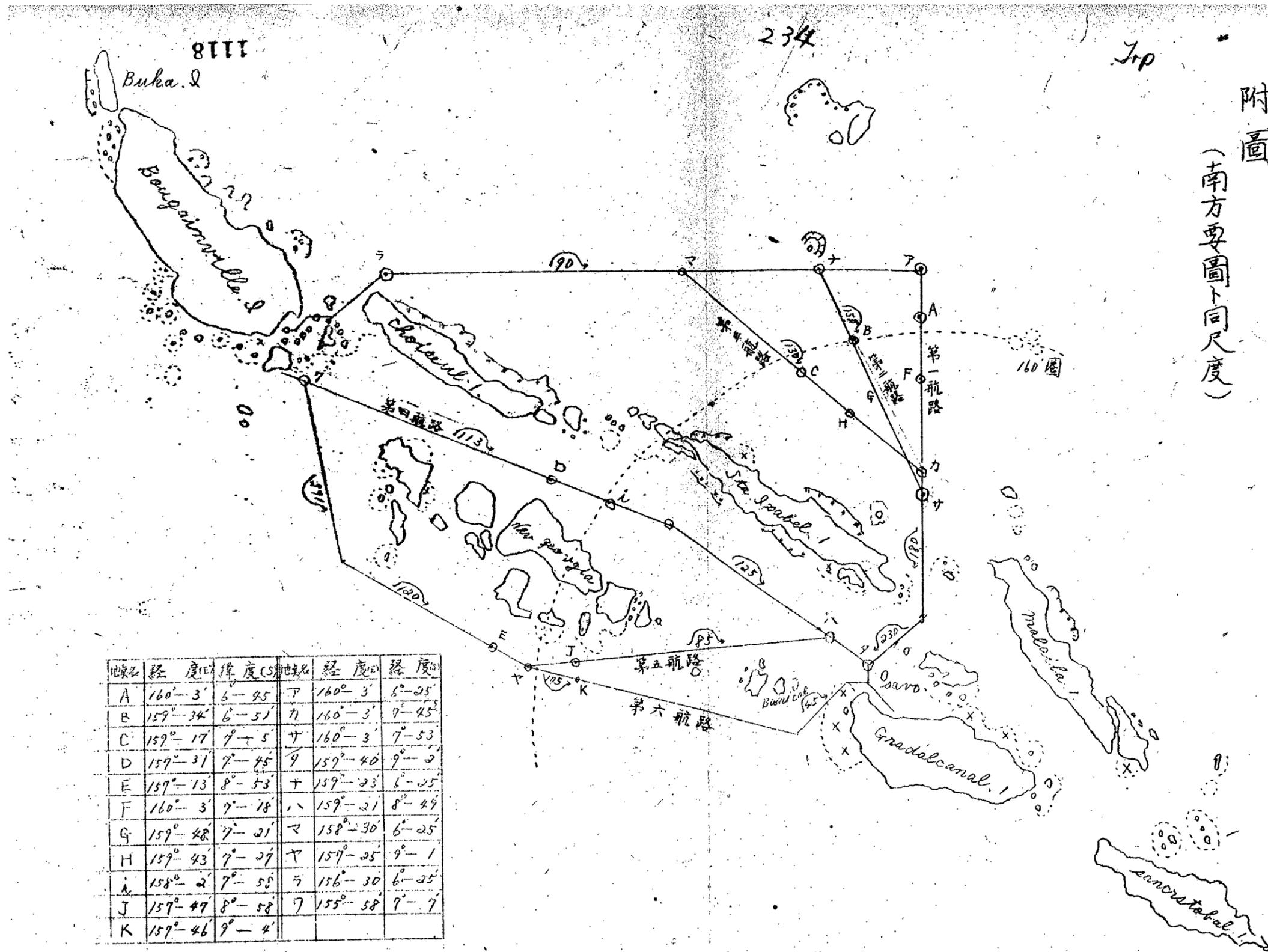
機密増援部隊命令作第二號 増援部隊通信計畫
 依ル

(四) 通話番號

隊名	通話番號	隊名	通話番號
増援部隊	雪	第一輸送隊	隊L
警戒隊	雪五〇	第二輸送隊	隊M
第一輸送隊	雪一〇	第三輸送隊	隊N
第二輸送隊	雪二〇	第四輸送隊	隊O
第三輸送隊	雪三〇		
第四輸送隊	雪四〇		

備考
 第四次以後、本命令第三、四、五、七項ハ後令ス

(終)



附圖
 (南方要圖と同尺度)

235

6111

輸送隊	警戒隊	區分	指揮官	兵	力	任
15名						
親潮	長波	照月	江風	涼風	有明	揚陸
黒潮	陽炎	江風	浦風	有明	揚陸	揚陸
陽炎	有明	揚陸	揚陸	揚陸	揚陸	揚陸
揚陸						

三軍隊區分

一 増援部隊 (卷波野分欠) 八月二十一日第四次が島
 二 輸送隊 實施ス
 三 輸送隊 實施ス

電機

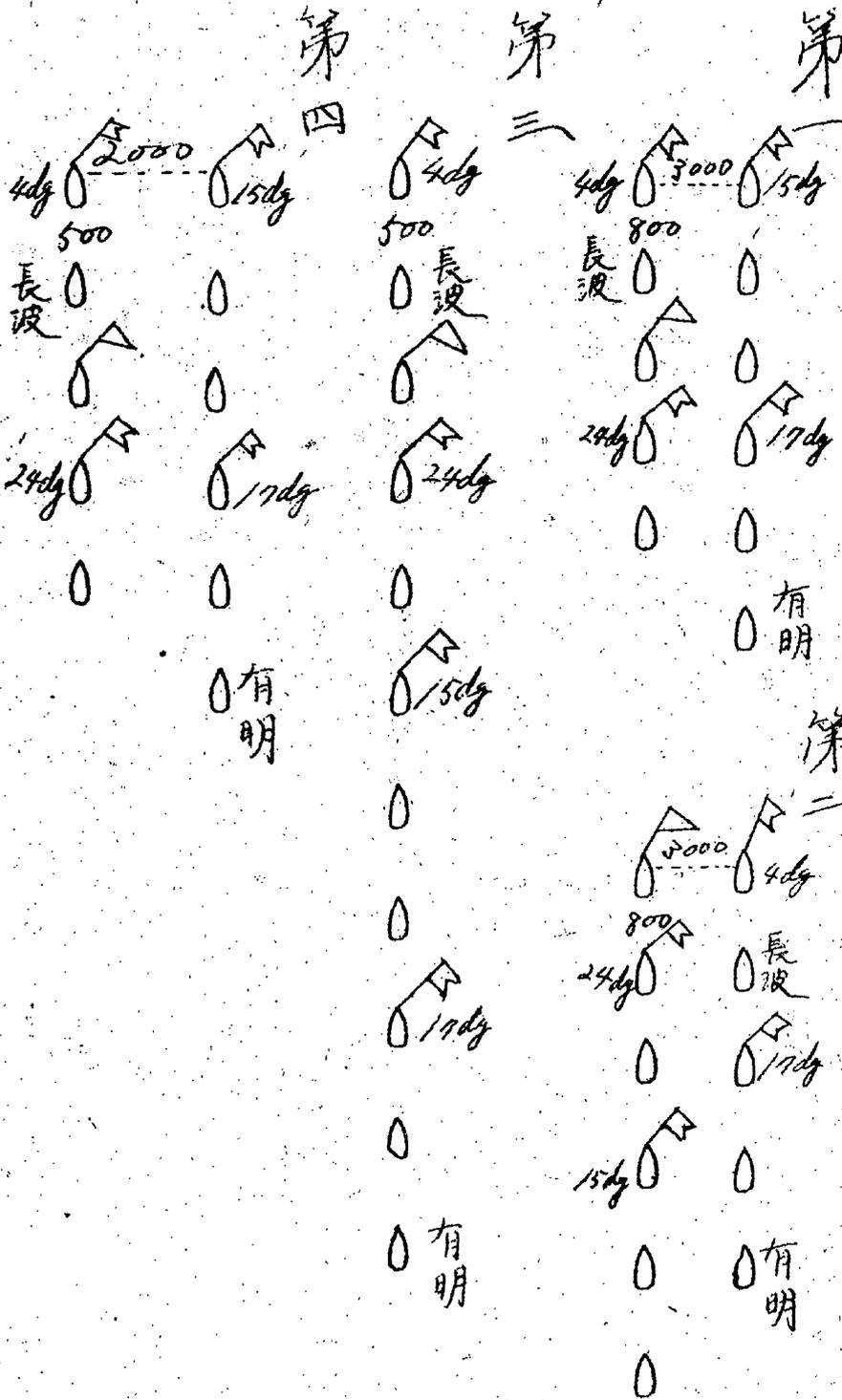
増援部隊命令

増援部隊指揮官 田中頼三

機密外南洋部隊増援部隊命令作第六號
昭和十七年十二月十日「シヨート」照月

83/100

四、警戒航行序列



五行動予定

各序列ニ於テ左列ヲ互ニ入換エタルモノヲ別法トス

十一日一三三。シヨートランド南口發渡外ニテ入ニテ第一

警戒航行序列(出撃順序ハ本序列ノ左側隊右側隊ノ順)

ハ五位速力ニ六節ヲ第四航路上進出一五。三。節ニ増速

ニテ。合ニテ發動第三警戒航行序列トナリ三四五

泊地進入揚陸作業開始ニ三三。同終了泊地發

サホ島西方ニテ特令ニテハ概テ第四警戒航行序列

別法トナリ第四航路經由歸投ス

六泊地警戒要領

警戒隊ハ特令ニテハ警戒航行序列ノ先頭ヨリ順次附圖

A. B. C. 哨區ニ各一隻宛 D. 哨區ニ殘餘ヲ配シ内方哨區

各艦ハ半速力至微速力ヲ右廻リニ旋回 D. 哨區ノ

七、保安

七、八編隊ヲ機宜移動哨戒ニ任ズ 魚雷艇發見艦
(最寄ノ艦)ハ要スレバ追跡改較手ニ付圖驅逐圏外
ニ較手退シ固有哨區ニ復歸スルヲ例トス

サホ島南方海面ニ於テ煙幕内ヲ行動スル艦ハ戦闘ニ
支障ヲ及限リ強速力以下ニテ一三五度(三一五度)線上
ヲ直走スルモノ回頭ハ右廻リヲ建前トス

八、其他

機密外南洋部隊増援部隊命令作第五號ノ通

(終)

1123

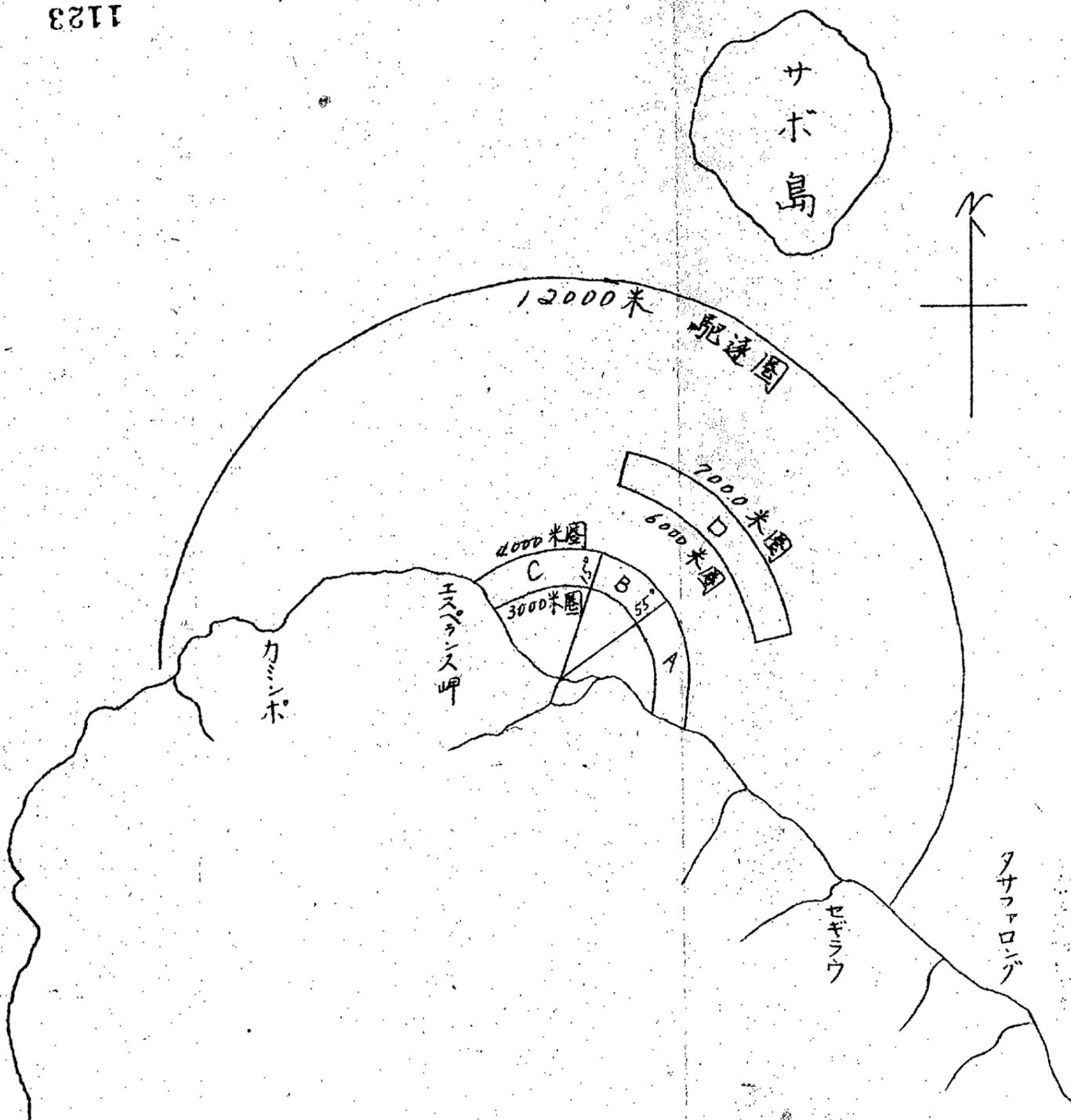
237

和

附圖

泊地警戒要領圖

(特殊兵要地兵圖ソロモン諸島其十二ト同尺度)



228 1124

令達報告等

<p>發 元 日時</p>	<p>受 宛(通報) 日時</p>	<p>令 達 報 告 等</p>	<p>無 別 種</p>
<p>外南洋部隊 指揮官</p>	<p>外南洋部隊 指揮官 11月15日 加號作戰部隊</p>	<p>外南洋部隊電令作第一四〇號 一、熊野(缺)摩耶護衛艦有明夕暮カビン着 後成ルベク速ニカビンヲ發シヨートランドニ進出スベシ 二、有明夕暮ハ準備出來次第ラバルルヲ發カビンニ 回航ク司令官ノ指揮ヲ承ケク熊野(缺)摩耶ノ 護衛ニ任ズベシヨートランド着後有明ヲ令ナク シテ支援隊ニ夕暮ヲ増援部隊ニ編入ス 主隊及支援隊ハ十二月三日午前シヨートランド着後 機宜出撃ヲ輸送作戰ヲ支援セシメラルルニ付増援 部隊ノ輸送ハ豫定通り十二月三日實施セラレ度 外南洋部隊電令作第一五三號 本職馬海及望月ヲ率ヒ十二月二日午後ラバル出</p>	<p>電</p>

江村参謀	GF参謀長	三月〇四四七 GF参謀長 増援部隊 各方面航空部隊	二月八五八 加藤作戦部隊 各司令官 江村参謀 大海一部長	輸送船四駆逐艦六、コリ山甲ニ入泊ス	<p>長 島シヨートランド方面ニ進出輸送作戦ヲ支援ス</p> <p>加島輸送ニ伴ヒ累次夜戦主起セル實情ニ鑑ミ 左通取計ニ度</p> <p>一、突入當ハ加島周辺飛行偵察ヲ綿密ニ行ヒ 敵海上兵力ノ動靜偵知ニ努メル外情況許ス限り 上陸点附近、敵ニ對シ夜間飛行接触ヲ行フ</p> <p>二、潜水艦ヲ加島、西側ニ配備哨戒敵情速報ニ 努ム</p> <p>三、エス・フランス、オランダ、カミンボ等ニ見張所(大型望遠鏡ヲ附ス)ヲ設ケ海上見張ヲ嚴ニス</p> <p>尚戦訓ニ鑑ミ特別ナル場合外大巡隊ノ支援 ヨリ之警戒駆逐艦多數配スルヲ有利ト認ム</p>
------	-------	------------------------------------	--	-------------------	---

25d 三月一六三六 司令官	25d 三月一六三一 司令官	江村参謀 三月一六二五 増援部隊指揮官 SF参謀長	江村参謀 三月一四三五 増援部隊指揮官 SF参謀長	外南洋部隊 指揮官 外南洋部隊主隊 全右 支援隊 カ號作戦部隊 各指揮官	不在基地
カ號作戦部隊	カ號作戦部隊	輸送船四駆逐艦六未カヨリ附近ニアリサボ方面ニ 西航セル駆逐艦ヲ認メズ	一、カサフロンカ小發三セキラウ大發一 ニ指定地点ニ灯火点灯準備完成 以上陸軍細川参謀報	外南洋部隊信電令作第ニ六號 主隊及支援隊、本日一三三。頃北水路ヨリ出島機宜 行動増援部隊ノ輸送作戦ヲ支援ス	
我交戦中 一六三二	敵飛行機ニ數機見エ 一六三〇				

<p>四月。七三四 増援部隊 指揮官</p>	<p>四月。九四一 増援部隊 指揮官</p>	<p>江村參謀</p>
<p>GF AF 各參謀長 AF 司令官</p>	<p>AF 司令官 カ號作戰部隊 各參謀長司令官 加通基地指揮官</p>	<p>三日八一 AF 參謀長 増援部隊</p>
<p>其後調査ニ依リ三月、空襲ニ於テ巻波右舷至近彈 並機銃掃射ニ依リ戦死下士官兵七名重軽傷 二名(准士官以上一名)主砲方位般無射機無線 兵器一部破損重油タンク使用不能三船隊各部</p>	<p>増援部隊戦斗概報第四號 駆逐艦一〇隻(輸送艦七隻警戒艦三)三月二〇日シヨートランド 發中央航路進出二三〇ヨリ一時間三ヨリB21機接触 一六二地点ケアアリニ於テ爆雷連機一四戦斗機九ト 交戦直衛機勇戦ト砲銃連ニ依リ撃退巻波ニ 被害アリタル外異状ナク二二五泊地進入ト云止 約一五〇並揚陸當時濛氣アリ夕暮魚雷艇二隻ヲ 發見セシモ我ヲ發見シ得スニテ逃避二三〇〇作業 終了泊地發中央航路經由〇九〇〇シヨートランド飯着</p>	<p>敵艦艇ハコカンボナ附近ヲ砲轟中</p>

<p>江村参謀</p>	<p>外南洋部隊 指揮官</p>	
<p>五月一二三四 増援部隊参謀 死参 謀</p>	<p>五月八五。 外南洋部隊 カ號作戦部隊 指揮官 大海一部長</p>	
<p>機密第一四四五番電送 セキラウ全部不着(灯火點出シアリ) 一夜間ニ揚収未済ノドラム缶ハ大部分晝間ノ 銃爆轟ニ依リ沈没 四日夜揚収セルヲ含ミ約三〇個ドラム陸揚ケニ 成功(以上船相國細川参謀報)</p>	<p>ニ任ズベシ 三能野ヲ支援隊ニ編入有明ヲ支援隊ヨリ除キ 増援部隊ニ編入ス 望月支援隊指揮官ノ指揮ヲ承ケ支援隊ヲ 護送ル後特令ナル迄カヒンニ在リテ同隊ノ警戒 テリテ警戒待機スベシ 外南洋部隊信電令作第一四六號 一支援隊ハ五日午後「バル」發「カヒン」回航「カヒン」附近</p>	<p>小破多数アリ 機関全力發揮差支ナキモ破損部修理ヲ要ス</p>

<p>8F 参謀長 五月八四五 11sf 司令官 GF 11AF 各参謀長 26sf 2sd 各司令官</p>	<p>8F 参謀長 五月六四四 2sd 司令官 GF 11AF 各参謀長 大海一部長 11sf 司令官</p>
<p>ガタルカナル島上空直衛ハ左ニ依ラレ度 一 夕刻直衛ハ一六三ヨリ實施ス(戦機ハ一六三迄 在空ス) 二 翌朝直衛ハ戦機ノミトシ水上機ヲ使用セズ 一 七日ガタルカナル輸送ニ關シ11AFト打合せノ結果 往路ハ一六三(ガタルカナルヨリ一八〇哩以上)迄飯路ハ 島ニ(ガタルカナルヨリ一八哩)ヨリ上空直衛ヲ配スル コトニ決定セルヲ以テ航路ハ右ニ應ズル如ク案書 アリ度</p>	<p>二 第一回ドラム輸送場陸量ノ高ニ過ギタル狀況 ニ鑑ミ次回以後ハ左記者慮ノ上實施サレ度 (1) 揚陸点ヲエスペランス及「タサフロング」トシエスペランス 六隻「タサフロング」三隻程度 (2) 極力陸岸ニ接近導索ノ授受ヲ確實ナラシム 尚「ドラム」並ニ連結數ハ主索一本ニ付一五。並 程度トス(合計搭載量従前)</p>

<p>六百一三四五 増援部隊 指揮官</p>	<p>8F 参謀</p>	
<p>8F司令官 115F 各司令官 115F 基地指揮官 加通基地指揮官</p>	<p>六百一五三 8F 参謀 115F 各参謀</p>	
<p>増援部隊機密第一五二番電中揚陸点 (隻数)ヲ左通変更ス タサハ第一揚陸点(三)「エスヘランス」(五) 通報 協谷部隊長 祝部隊長</p>	<p>陸軍ヨリ通報ニ依リ8F機密第一五九三番電第一項ニ左ヲ追加セラル 一、タサハニ於ケル揚陸点ハ第一揚陸点(一本木)附近寄リヲ可トス 二、艦艇並ニ大發ノ進入ニ當リテハ標燈ヲ一線ニ見ルヲ可クス 三、トラム正ハ引揚能力ノ關係上一五〇個ヲ限度トス</p>	<p>(ハ)有明拖送ノニハ乃至三ニ耗索六〇〇米ヲ用ヒ道中ノ強度ヲ増ス (ニ)加島陸軍ニ對シテハ揚陸上ノ注意ニ関シ詳細通達スルガ如ク方面軍ニ申入レ置ケリ</p>

<p>8F 参謀</p>	<p>8F 参謀長</p>	<p>二〇四空司令</p>	
<p>七月一〇一五</p>	<p>六月八二二 十七軍参謀長 GF 各参謀長 2sd 司令官</p>	<p>六月一五四一 2sd 各司令官 8F 各参謀長</p>	<p>11AF 各参謀長 丙公精水部隊</p>
<p>ガカルカナル輸送日程ハ七日、外左ノ通寔實施セラレ</p>	<p>次回輸送ニ當リテハ貴方ノ要望事項ヲ全部各部ニ通達手配中ニ付貴方ニ於テハ必ず當夜中ニ揚收スル様全カヲ盡サレ度 尚ト云々並航ニ際シテハ特ニ急引ヲ避クル様留意セシメラレ度</p>	<p>8F 機密第〇五五九番電開聯 戰斗機ヲ以テスル増援部隊上空直衛ハ現状ニ於テハ夕刻八日没時基地上空着初五朝八日出五分前基地發進ヲ限度トス 右ノ情況ニ鑑ミ増援部隊ハ往路中央航路ヲ採リ且夕刻ノ位置ヲ可及的基地ヨリ近クシ戰斗機哨戒ノ完壁ヲ期スルヲ有利ト認ムルニ付可然取計ハレ度</p>	

<p>七日一九二</p>	<p>13 Aug 司令</p>	<p>15 Aug 司令</p>	<p>15 Aug 司令</p>	
<p>長波駆艦長</p>	<p>司令官 増援部隊指揮官</p>	<p>増援部隊 江村参謀</p>	<p>増援部隊 加號作戦部隊</p>	<p>25d 司令官 GF/AF 各司令官 五三飛行基地 指揮官</p>
<p>照月令ヨリ現場ニ急行ス位置針路速カ知ラズ 飯投セシム</p>	<p>下ニ飯投セシム 有明ハ味方不時着搭乗員救助後野分ト合同</p>	<p>揚陸ス 夕サハロンク揚陸ヲ取止メ、エスヘランスニ全部(七隻)</p>	<p>一六四。敵艦爆。戦斗機四見エ地点ケ一四一</p>	<p>度キ内音ナリ 十日使用駆逐艦九隻 十三日使用駆逐艦九隻(十日不参加三隻)八日 「パナヨリ」転用ノモ(二隻)</p>

<p>15dg 司令</p>	<p>4dg 司令</p>	<p>増援部隊 指揮官</p>
<p>8F司令長官 加島守備隊長</p>	<p>7日 2006 増援部隊指揮官 15dg 司令 GF 3F 横鎮 各司令長官 10S 司令官 189 115F 26Sf 各司令官</p>	<p>4dg 司令 8F 参謀長 18g 司令官 15dg 司令官</p>
<p>二二ヨリ三五五直リ、サボ島南西海面ニ於テ敵魚雷艇 六隻ト交戦之ヲ退セリ 我が被害親潮雷艇ニテ受ケタル被害ナク銃臺ニ 依リ戦死ニ名軽傷八名三米測距儀使用不能 二二三〇再進入揚陸ヲ企図セシガ敵飛行機及魚雷</p>	<p>野分一六五〇急降下爆轟至近弾ニ依リ機械室 右舷ニ約一〇米ノ破口ヲ生ジ同室満水（流没切斷ノ 虞ナシ）航行不能人カ操舵可能長波曳航嵐 有明警戒シヨートランドニ向フ地点ケノ33</p>	<p>一八〇五</p>

八日一四。 増援部隊 指揮官	加號作戰部隊 各參謀長 各司令官 江村參謀	出現、爲揚陸ヲ断念、航途ニ就クニ四。 増援部隊戰斗概報第五號 第三次輸送部隊(駆逐艦十一隻)ハ、司令官指揮下ニ 七百三〇。シヨートランド南口發中央航路進出敵ノ 觸接機ヲ認メサリシモ一六四〇地点ケシカニ於テ敵 爆轟機二機戰斗機四機來襲直衛觀測機ト共ニ 三分間ニ互リ交戦野分被彈ニ依リ前部機械室 第三主室満水航行不能戰死機関長以下十七名 嵐至近彈ニ依リ小損(應急處置ニ依リ全ク發揮 差支ナシ)黒潮ハ爆轟機一機ヲ墜せリ野分ハ 長波ヲシテ曳航セシメ嵐有明(十歳塔乗員二名 收容後合同)護衛下ニ引返ス 再余隊ハ揚陸点ヲ全部エスパランスニ変更予定通 運出セリ 二二三。ホ島南西ニ於テ魚雷艇八隻 來襲黒潮内一隻沈没親潮雷艇(二本)ヲ受ケシモ 命中セズ
----------------------	--------------------------------	---

敵銃車ニ依リ三米測距儀使用不能船体ニ多數
被彈アリ

戦死下士官兵二名輕傷九名ヲ出シタリ

二三〇部隊ヲ集結再度進入ヲ企シモ魚雷艇及

敵機ノ來襲ニ依リ揚陸ヲ断念シ返途ニ就ケリ

照月八九〇〇、シヨートランド發急速損傷艦救援ニ向ヒ

二三〇之一會合護衛ニ任ズ

全部隊〇九〇〇、シヨートランド歸着

所見

一敵機ハ味方戦機隊ヲ揚後薄暮ヲ利用

急襲シ來ルヲ以テ之ガ阻止ヲ攘ノ對策ヲ講ズル

ヲ要ス

二敵ハ多數魚雷艇ヲ使用、サボ島西方及揚陸占

ニ隻對艇トナリ警戒シアリ

其ノ奇襲ヲ阻止スルハ至難事ニシテ特ニ入泊揚陸

處ニ乘ジ警戒艦ヲ脱過侵襲シ來ルハ輸送隊ト

附近

加島守備隊長	加島守備隊長	GF司令長官	外南洋部隊 指揮官
十日一八五七	十月一五五 増援部隊指揮官 //AF 8F 6F 各參謀長	十月一〇三七 8F 各司令長官 18S 25d 各司令官 總長 第方面軍司令官	十日二二三 R方面航空部隊 指揮官 内陸部隊指揮官 南東方面部隊 6AB
一魚雷艇六 暗クナリテヨリ 行動ヲ開始スルニ付陸上ヨリ	輸送船三ツルカ岬東方ニ於テ荷揚中 駆逐艦六 附近哨戒中	今次、駆逐艦輸送ニ期待スルトコロ極メテ大ナリ 有ラユル手段ヲ講ジ任務達成ニ努メヨ	シテ最モ苦痛トスル處ナリ 外南洋部隊電令作第二六一號 左ニ依リ増援部隊ノ上空直衛ヲ實施スベシ 十日 一六三五ヨリ 三〇分間 十一日 黎明ヨリ 〇四三〇迄

<p>十二月〇〇〇〇</p>	<p>8F司令長官 カ號作戦部隊 各指揮官</p>	<p>視認通報スルト不可能ナリ 敵魚雷艇ノ特性ニ鑑ミ攻棄シテ一ニ隻ニテモ妻滅 セバル後出現中絶スベシ 隱密回避ノミヲ日トセバ益致慮スルモノト認ム</p>	<p>〃</p>
<p>十二月〇一三五</p>	<p>加島守備隊長 8F参謀長</p>	<p>照月「エス」ハランス沖ニテ魚雷命中航行不能 乗員救助方手配アリ変</p>	<p>〃</p>
<p>十二月〇三〇八</p>	<p>8F司令長官 加島守備隊長 GF 2F 3F 各参謀長 115F 265F 各司令官</p>	<p>三〇〇「エス」ハランス沖ニテ照月ニ魚雷命中火災航行不能 道ニ乗員ノ救助ニ努メ約半数ヲ收容セシモ 魚雷艇ノ襲撃ヲ受テ果サズ翌朝離脱 距離ヲモ考慮シ自沈上乗員ハ陸上ニ退去スベキヲ 命ジ〇〇引揚グ ト云迄六隻介約二〇〇個揚陸セリ</p>	<p>〃</p>

島守備隊長 十月。六三七	島守備隊長 十月。七三二	十月二二五 増援部隊 指揮官
増援部隊 參謀長	増援部隊 參謀長	各號作戰部隊 各參謀長 各司令官 司令官
艦爆三 戰鬥機二 北西方ニ向フ	サル島西方ノ損傷艦ハ夜中ニ沈没セルモノト 認ム	増援部隊 戰鬥機報第六號 第四次輸送部隊(駆逐艦二隻) 十一日一三三〇シキト ラト南口發中央航路進出 一六五五敵爆專機 二數機 戰鬥機數機ト交戦内ニ機專隊ト我被害ナシ 二四五 サル島南方ニ於テ敵魚雷艇數隻發見外方 哨區警戒隊(2隻)ヲ以テ專攘ニ努メニ隻專沈 一隻大破擱坐セシメ其ノ間輸送隊ハ泊地進入ト云 正約二〇個ヲ投入敵魚雷艇ト交戦及敵機哨戒 爲小發殘留儘三三五群退セリ 内方哨區ニテ哨戒中、照月ハ三〇〇エスヘランス

北方三料ニ於テ左舷後部ニ魚雷命中舵及左舷
 機故障航行不能ニ陥リ重油引火シテ大火災ト
 ナリ誘爆連続發シ全ク救援ノ方途ナキモト認メ
 將旗ヲ長波ニ揚揚シ嵐ト共ニ乗員救助ニ努メ
 約四〇名ヲ收容セシモ魚雷艇ノ頻繁ナル襲撃アリ
 翌朝ノ離脱距離ヲモ考慮シ自沈ノ上殘員ハ陸上ニ
 退去スベキヲ命ジ〇〇〇救助断念中央航路經由
 十月〇九三〇(嵐ハ北方航路經由一六〇〇)シヨートランドニ
 飯投セリ

所見

一敵魚雷艇ノ活動益活潑トナリ今次ノ實績ヨリ
 見ルモ之ヲ全ク阻止スルハ至難事ナリ
 二第三次第四次輸送共敵接機ヲ認メサリシニ拘ラス
 敵機ハ味方直衛戦機ヲ揚後短少ナル視界
 段落期ノ薄暮攻撃ニ成功セルヨリ見テソモ
 各島ニ見張所ヲ有スルモノト認メラル

61dg 司令	
増援部隊指揮官 8F 各参謀長 10S 司令官	
<p>一〇二五自沈處置完了 總員退去 〇四〇自沈確認ス 二司令艦長以下准士官以上一七名下士官兵 一三九名カミソボニ在リ 三暗號書其他重要書類処分済</p>	<p>三薄暮暴轟ハ敵機ノ視認困難ニシテ被爆轟 側ニ不利多シ 一九〇七</p>